

2026年8月9日 主日礼拝 <聖餐式>

司 会 ①村上兄 ②宮嶋兄 ③森山兄(赤石沢姉)
祈 禱
奏 楽

賛 美 聖歌467番「みくにのここちす」
十 戒 (いのちの光)(主は御座におられる)

聖 書 ① ヨハネによる福音書15章12～17節(P194)
②③ ローマの信徒への手紙5章6～11節(P274)

音 楽 ① 北島美佐子姉(ピアノ:扇谷美和姉)
②③ NCM2(V)

メッセージ ① 「あなたを友と呼んだ」 久保田豊副牧師
②③ 「ハレルヤ！私は歩きだします」 小山英児主任牧師

賛 美 「丘に立てる荒削りの」(聖歌402番) 献金
頌 栄 「主の祈り」アーメン
祝 禱 大川従道監督牧師

「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが
私たちのために死んでくださったことにより、神は
私たちに對する愛を示されました。」(ローマ五の八)

【大和ニュース】

- ☆暑中見舞い申し上げます。本日、長崎原爆の日。平和のために祈りましょう。
- ☆学生会キャンプのためアルバイト。第2・3後、うどん(500円)を販売。ご協力お願いします。
- ・ 本日、ドルカス会(12:30・3階ロビー)、SS教師会(12:45・森地下)、青年・学生・ヤンチャ！
- * 第4礼拝(18時)説教は熊谷茂伝道師「来るべき方を待つ」。泉チャペルにて。
- * 今週の祈禱会は水曜夜と木曜朝、説教は小林詩音副牧師。(木曜:ヌイヌイ)
- ・ 火曜日から木曜日、青年会キャンプ。お祈りください。松原湖にて。・せい禱会(月)
- ・ 土曜日は花盛り、会堂掃除(12:00)、ミニ子ども食堂(12:30・森チャペル)。
- * 来週の日曜日第2・3礼拝は葉先生(台湾)の予定でしたが、来日できなくなりました。
大川先生がメッセージを取り次がれます。
- * 主日礼拝人数 ①89人(208) ②214人(154) ③282人(200) ④31人=1178人
定例祈禱会 水曜92人(138) 木曜121人(78)=429人 ※()内はYouTubeのライブ人数

石の枕

大和カルバリーチャペルの前身である座間教会の初期メンバーの一人に三畑君江さんがいます。三畑義雄長老の奥様であり、元(はじめ)長老・小林節子姉のお母様。小林詩音先生のお祖母様です。

第二次世界大戦末期、三畑義雄長老はじめ親族や兄弟家族は満州へ移住しました。しかし義雄長老は出征のため日本へ戻ることにになり、君江さんは四人の幼い子どもたちを抱え、一人で家族の生活を支えることになりました。

1945年8月、終戦の四日前のことです。周囲の様子から、ただならぬ事態が起こっていることを感じていました。翌朝、開拓本部から突然、「ここは戦場となる。二時間以内に身のまわりの物だけを持ち、二度と帰らない覚悟で本部に集まるように」と伝言がありました。君江さんは家族にそのことを伝え、聖書を前に置いて祈りました。その時の祈りの言葉がこう記されています。

『今私にとって一番大切なものは聖書だけです。罪を赦して下さい。子どもたちと共に天国にゆけるように備えさせて下さい。これから先何が待っていようと、御言葉に従って歩みます。一切を主の御手に委ねます。導かれるままに歩みます。』

聖書を持って子ども4人を連れて逃げました。やがて終戦を迎えましたが、満州にはなお北からソ連軍が侵攻し、混乱と苦難の日々が続きます。その中で、まだ六歳だった次女・芳子さんが亡くなり、その後、一歳だった次男・和也さんも天に召されました。さらに長女・幸子さんとは生き別れとなり、君江さんと当時七歳だった長男・元さんだけが日本へ生きて帰ることができました。長女・幸子さんとの再会は、それから数十年後に実現します。その時には、大川先生も空港まで一緒にお迎えに行かれたそうです。

戦後、座間にいた二人の米兵が自分たちの小遣いを捧げてトラクトを配布しました。その一枚が、この三畑家に入り、座間教会の礎となりました。聖書の御言葉に従って歩み続けた三畑君江さんの証は、決して忘れてはならないこの教会の大切な歴史です。(文責:小山)



今日は学生会が「ひんやりシェイクうどん」を販売。うどんを振って(シェイクして)次世代を応援しましょう！

宿題(祝大) 今週もむさぼるように聖書を読みましょう！

Aコース:ローマ9章～14章 Bコース:詩編85編～104編